

日時：2026年 **11**月 **3**日（火）12:50～17:30

場所：早稲田大学戸山キャンパス

33号館 **3**階第 **1**会議室 + **Zoom**

- * オンラインでの参加希望は右の赤色の QR コードからお申し込み下さい（10月27日〆切）
- * お問い合わせは加藤大鶴（早稲田大学文学学術院 daikaku.kato@waseda.jp）まで
- * 使用言語は日本語のみ
- * このポスターは右の青色の QR コードからダウンロード可能です



早稲田大学 × 清華大学 × 日本大学

日本研究フォーラム2026

Program

開会式（12:50-13:00）

開会の辞：十重田裕一（早稲田大）
総合司会：加藤大鶴（早稲田大）

第1部（13:00-14:45）第1部司会：清水智史（早稲田大）

研究発表会：

研究発表1：崔麗紅（清華大）[15分]

『朝日新聞』「声」欄における「姥捨」の表象

研究発表2：西村こと（早稲田大）[15分]

「浅草に召喚された〈人魚〉」—谷崎潤一郎『鮫人』についての一考察—

研究発表3：浜地百恵（早稲田大）[15分]

「澁澤龍彦『菊灯台』における羅陵王受容

—仮面をつけた美少年の身体と少女の幻想—

講演：孫彬（清華大）[45分]

「日本近代における「理学」と「哲学」の射程」

ディスカッサント：ベント勇亮ヘンリー（早稲田大）・山西将矢（早稲田大）[15分]

第2部（15:00-15:40）

トークセッション：『漫画の漢字を学問する』[40分]

パネリスト：藤本灯（清華大）・加藤大鶴（早稲田大）[30分]

ディスカッサント：田中ゆかり（日本大）[10分]

第3部（15:55-17:25）第3部司会：澤崎文（早稲田大）

ワークショップ：「日本語学と日本語教育」[1時間30分]

発表者：劉瑞程（清華大）[15分]

「認知言語学視点からの「名詞でいる」構文再考

—プロトタイプおよびスーパー・スキーマ理論を中心に—

発表者：常舒婷（早稲田大）[15分]

「中国人日本語学習者による「評価成分」の使用実態

—習得フレームの観点から—

発表者：趙蓉（清華大）[45分]

「日本語の様態存在文に関する一研究」

ディスカッサント：松崎寛（日本大）・森山卓郎（早稲田大）[15分]

閉会式（17:25-17:30）

閉会の辞：王成（清華大）

懇親会（18:00～）

主催：早稲田大学総合人文科学研究センター 東アジアの人文知、早稲田大学SGU国際日本学拠点

共催：早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所

後援：科学研究費基盤研究B(25K00465)：日本漢字音・漢語音の広領域研究拠点創設のための基礎的研究（代表：加藤大鶴）